

前号報告の不正事件 NHK北海道が放送 今後の解明に期待

前号でお伝えした内部不正絡みの不正サブ基板及び不正サブ中継基板の事案に関してマスコミ報道がありました。

2016年2月2日付 NHK
北海道NEWSWEB。

【帯広市内のパチンコ店の店員が知り合い2人と共に勤め先の店に忍び込み、パチスロの台にメダルが出る確率を不正に操作する機械を

取り付けようとしたとして、器物損壊などの疑いで逮捕されました。逮捕されたのは帯広市のパチンコ店店員、A容疑者(42歳)のほか、いずれも帯広市の無職、B容疑者(34歳)とC容疑者(34歳)の3人です。

警察の調べによりまずと、3人は、先月10日、A容疑者が勤める店に開店前に忍び込み、パチスロ台に、メダルが出る確率を不正に操作する「裏ロム」と呼ばれる機械を取り付けようとしたとして、建造物侵入と器物損壊の疑いが持たれています。以前からA容疑者

が開店前の早い時間に店に来るなど不審な行動を取っていたことから店側が注意していたところこの日の犯行に気づき、警察に通報したということです。

調べに対してA容疑者ら2人は容疑を認め、見張り役とみられるC容疑者は「ついていっただけだ」と容疑を否認しているということです。警察は、3人がこれまでも「裏ロム」を使って不正に利益を得ていた可能性があるとして詳しく調べることにしています。――

まだまだ捜査の途中のようです

が、まずは器物損壊罪で立件できたことでマスコミ発表に至ったようです。不正部品の入手ルートなどの解明は、とても難しいとは思いますが、今後の捜査に期待しています。

「サブ中継」ゴトでは 偽造した新品の 「赤色」コネクタカバー

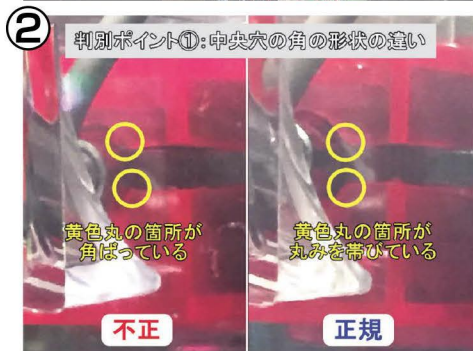
前号でお伝えしたユニバーサル系の「アナザーゴッドハーデス」「バジリスク」甲賀忍法帖Ⅱの不正サブ中継基板に関してのチェックポイントですが、被害台は「光通信コネクタ」部封印部品が偽造された部品に交換されていたことが判明しております。

「光通信コネクタ」部封印部品とは、サブ中継基板左下側にある光ファイバー(サブハーネス)が差し込まれている「赤色のコネクタカバー(写真①参照)」のことを指します。不正サブ中継基板に交換するためには、作業手順上、絶対にこの「赤色のコネクタカバー」を開封しなければならず、その際に「赤色のコネクタカバー」が破損

ゴトに勝つ 高石隆一

55

打ち子はこまめに出入玉交換 理論武装して毅然と拒否を



する可能性が高いので、偽造した新品の「赤色のコネクタカバー」をつけて偽装しているのです。

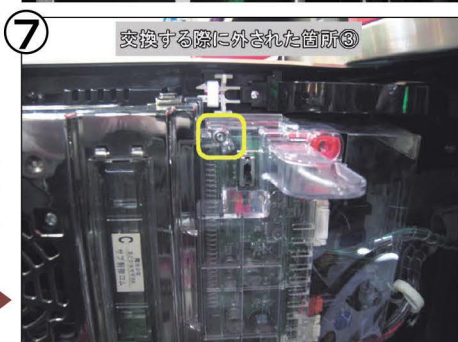
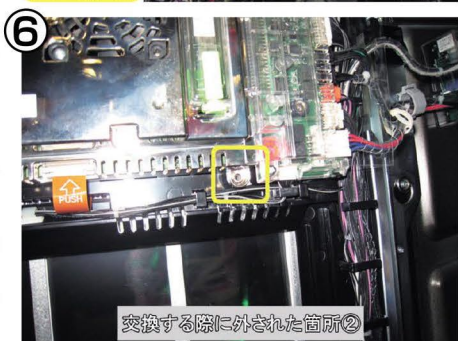
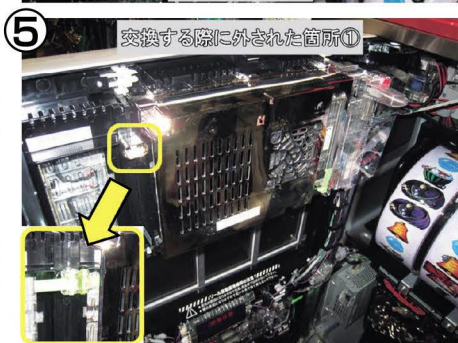
しかし、この偽造「赤色のコネクタカバー」には、いくつかの正否チェックポイントがあります。

**形や色の違いなど
差異は小さいので
チェックは慎重に**

チェックポイントのひとつ目として、「中央穴の角の形状の違い（写真②参照）」があります。正規品は中央穴の角部が丸みを帯びていますが、偽造品は中央穴の角が角張っています。チェックポイントのふたつ目は、「右側面の切れ目（スリット部）の形状の違い（写真③参照）」があります。正規品は手

前側の幅が狭く奥側の幅が広くなっており、偽造品は手前側の幅が広く奥側の幅が狭くなっており、正規品と逆のつくりになっています。

チェックポイントの三つ目としては、「色の違い」です。写真では微妙ですが偽造品のほうが正規品より赤みが強くなっております。これらのチェックポイントは、現時点ではゴト師が偽造品として一から作成してきていることから差異が生じておりますが、今後、正規品の再利用や列記した正規品との



⑤ 差異を改善した偽造品が登場した場合には、このチェックポイントでの判別は行えなくなる可能性があります。ありますのでご注意ください。

また、自店で正否判別を実施する際には、判別ポイントの差異は非常にわずかなものとなっておりますので、1台ずつ確認する必要があります。はなくユニバーサル系スロット他機種など複数台をよく見比べながら慎重に点検されるようお願いいたします。

「魔法少女まどか☆マギカ」は取り付け手順読めば誰でも簡単にできる

この「光通信コネクター部封印部品」の偽造品による正否判別に關しては、今回被害が確認された

「アナザーゴッドハーデス」「バジリスク〜甲賀忍法帖〜絆」「バジリスク〜甲賀忍法帖〜II」と同一筐体である「やじきた道中記乙」「ミリオンゴッド〜神々の凱旋〜」でも有効ですが、前号でお伝えした被害未遂で終わった「魔法少女まどか☆マギカ」等の筐体に関しては構造が異なるため対象となりませんのでご注意ください。

「魔法少女まどか☆マギカ」などの筐体に不正サブ中継基板（写真④参照）を取り付けるためには、「アナザーゴッドハーデス」などの筐体と違いサブ基板を取り外す必要があります。

前号でお伝えした侵入犯（不正品の取り付け作業担当）が所持していたものとして「エアーパッキン」に包まれたサブ中継基板（不正

品)」「インシシュロック(緑色の結束バンド)」「赤いかしめキャップ」
「不正品の取り付けマニユアル」などがあり、その取り付けマニユアルの手順で「サブ基板を外す」とはつきり明記されていました。

取り付けマニユアルの手順には、インシシュロック(緑色の結束バンド)の切断(写真⑤参照)や取り外すネジの指定(写真⑥⑦参照)など、とても丁寧に説明されていて、このマニユアルを見ながら作業すれば誰でも簡単に取り付け作業ができるようになっていいるのだと感心させられるものでした。

連日のデータ異常や ドアの開閉履歴のほか 「WDR PST」注意

侵入犯が所持していた「赤いかしめキャップ」は偽造品である可能性が高いと思われますが、捜査資料(証拠品)であるために当局が押収していったので一瞬しか見ることができず、現時点では正否判断のポイントが判明しておりません。ポイントが判明しだいお知らせいたしますので、それまでの期間には次に列記するメーカーによる警

戒ポイントを参考に注意してください。警戒ポイント① 特定の遊技客が連日メダルを獲得している。警戒ポイント② 稼働データに異常がある。警戒ポイント③ ドアの開閉履歴に異常がある。警戒ポイント④ 基板やハーネスに不自然なキズがある。

以上がメーカーからの警戒ポイントになりますが、これ以外の警戒ポイント⑤として「エラー履歴で「WDR PST」(サブ基板リセット発生)が表示されている。」があります。これは不正サブ中継基板に交換した際(深夜や早朝などに記録される可能性が高いエラー履歴になります。前号の事例では、内通者だったホール従業員が仕込

北斗の拳F



⑧

み作業後にエラー履歴を削除してしましたので、不審なエラー履歴の削除には注意が必要です。

「北斗の拳F」で発見 上乗せバトルの継続 ランプカバーの確認を

認定機として設置されているサミー「パチスロ北斗の拳F」から不正品が発見されたとの未確認情報が入ってきております。その不正品は下部パネル左側にあるランプ基板部に仕込まれていた(写真⑧参照)とのことです。

サミー「パチスロ北斗の拳F」では、ART中の上乗せバトル時にセルでショット(通電)を起こし、その後も毎ゲームショットさせることにより、上乗せバトル状態を内部的に永遠に継続することで大量のゲーム数を上乗せさせる手口のセルゴトが過去には発生していました。

不正品が仕込まれた箇所が、過去にセルで狙われた箇所と同一の箇所であることから、この度発見された不正品も、何らかの形で基板をショットさせるものであると推測できます。理論的にも技術的

にもセルでおこなっていた作業も不正部品で実施することは可能だと思われるので、サミー「パチスロ北斗の拳F」を設置されているホールにおかれましては、下部パネル左側にあるランプカバーを開けて内部に不正な基板が設置されていないかの安全確認を早急に実施してください。

今回の不正品は、営業中に取り付けが可能な箇所なので、安全確認後も注意が必要です。定期的な安全確認の実施を忘れないでください。今回狙われたのは既に認定機になっているサミー「パチスロ北斗の拳F」ですが、このように今後も過去に発生したゴト手口を改良して現存しているART/ART機を狙ってくるのが予想されます。

西日本で被害が多い 「月下雷鳴」のセル攻撃 1万枚以上の店舗多数

過去の被害機種ではサミー「パチスロ北斗の拳F」以外に、今年になって被害が多発しているのがエンターライズ「モンスターハンター月下雷鳴」のセルゴトです。

その手口は、筐体左側面にゲタを挿入して強引に隙間を広げ、その隙間からセルを挿入してサブハーンズやコネクタ一部に接触し、そのセルを介して不正コマンド生成器からの偽のレア小役情報等を送信することにより、サブ基板を誤認識及び誤作動させてATの誘発や継続を狙うというART/ATを狙ったセルゴトの王道のパターンです。

主に西日本からの被害報告が多く入ってきておりますが、今後はこのゴトグループがどこに現れるか注意しなければいけないので、設置店舗におかれましては常に注意が必要です。被害状況を分析してみると、2千枚くらい毎に途中交換されており、結果的に1万枚以上の被害が発生してしまったという店舗が多数出ております。

途中交換の手法には

「差枚アラート」の見直し 早い時点の画像チェック

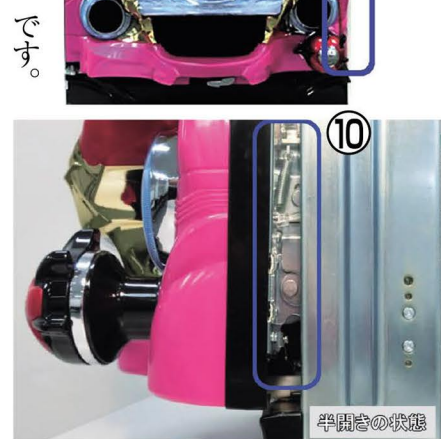
ゴト被害に気がついた経緯としては、データチェック時に6千〜1万枚くらいの差枚を不審に思い防犯カメラの録画映像のチェック

したところ、「モンスタ―ハンター月下雷鳴」を複数人で取り囲むような様子や左側面をこじ開けて何かの器具を差し込んでいる様子が残されていた、それでゴト被害に気がついたという店舗がほとんどです。



打ち子は、ゴト実行グループとの関係性が立証できないのを知っていて、善意の第三者のふりをして権利を主張してくるので店舗側は毅然な態度でしっかりと理論武装して対応することが重要なポイントになります。

店舗側にゴト被害による出玉だと気づかれると出玉を無効にされてしまうゴトグループは、こまめに途中交換して利益を確保する手法をとる事例が増えてきております。この手口に対応するには、ホールコンの差枚アラート設定数値の見直しや見慣れないお客様との中交換時には防犯カメラの録画映像をチェックするなどして、早い段階で被害に気がつくようにして実被害を最小限にすることが重要



ヘブンブリッジ

「ヘブンブリッジ」で 筐体を傾げる犯行 機枠の下側をマーク

羽根物では、どつきや糸付き玉、油玉などの手口でゴト被害が多発しておりましたが、ソフィア「CRAヘブンブリッジ」において「遊技機枠に強い力をかけて遊技機の傾斜を変えV入賞率を上げる」といった不正事案が発生しているとの注意喚起文がメーカーより発出されております。

手口としては、ハンドル部から遊技機に強い力を加え(写真⑨参照)、遊技機枠の下側のフックを外し、遊技機の傾斜を変えることでV入賞率を上げるといふものです。ゴトをおこなっている最中は、遊技機枠の下側が半開きの状態となりますが、犯行後は元に戻してい

くので遊技機には一切の痕跡が残らないとのことです。

羽根物コーナーは常連のお客様の着席率が高い傾向が見られますので、見慣れない人物へ警戒し怪しい動きが遭った場合や定期的なデータチェック(特賞確率等)の実施で怪しいデータだった場合は、防犯カメラの録画映像のチェックを実施して不正行為にいち早く気がつく体制作りをお願いいたします。

ソフィア「CRAヘブンブリッジ」に関しては振動センサーが標準で取り付けられておりますが、今回の手口では発報しない可能性があります。また、不審な状況が確認された場合には、遊技木枠の下側が開いていないかのチェック(写真⑩参照)をお願いいたします。トラブル等で台を開けた場合に関しまして、閉め忘れのないようお気をつけください。

■高石隆一 ■たかいしりゅういち
警備会社の指導員、セキュリティ会社を経て2003年、有会社ジャパンセキュリティサービスを設立し代表取締役。札幌方面遊技事業協同組合、札幌遊技業協同組合、札幌遊技業支配人会の顧問を務めるかわら、パチンコ産業のセミナー講師を数多く務める。北海道警察本部の捜査にも協力している。二期会が座右の銘。